

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 16 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25380363

研究課題名(和文) 学生と企業間の就業意識の差と雇用のミスマッチに関する定量的研究

研究課題名(英文) Realities and Ideals of Competencies; The Perceptual Gaps between Companies and University Students

研究代表者

曽我 亘由 (Nobuyuki, Soga)

愛媛大学・社会共創学部・教授

研究者番号：50346657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、企業が大学生に期待する能力と、企業が大学生に対して求めていると大学生自身が予想している能力との間の相違について検討し、職場で必要とされる能力に対して、企業と大学生の評価の間に相違があることを明らかにした。特に企業と大学生の能力に対する優先度は異なっており、本稿の調査結果では、企業と大学生は共に、多彩な個人の能力に高い価値を見出しているが、大学生はチームワーク力が最優先の能力であると考え一方、企業にとって、チームワーク力は最優先の能力ではなく、学生と企業の間での差異を見出すことができる。また大学生の学年や性別によっても認識の相違が存在することを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：In this study, we analyze the gap between the competencies that companies seek in university students and the requested competencies from companies that university students expect, through the distribution of a questionnaire to Japanese companies and university students. We find that a gap exists between companies' and students' evaluations of students' competencies. Surprisingly, the companies' and students' stated priorities for competencies are seriously different. Our results show that companies highly value versatile personal or interior competencies as being essential for employees. Conversely, students highly value skills and knowledge as essential competencies for work.

研究分野：ミクロ経済学

キーワード：社会人基礎力 キャリア教育 雇用のミスマッチ

1. 研究開始当初の背景

平成23年4月の「大学設置基準」の改正・施行において、大学におけるキャリア教育の必要性が高まっており、高い専門性の獲得と合わせて、ゼミナール活動や正課外活動を通じた職業観、人生観、および社会人として必要な素養の獲得が期待されるようになった。大学教育においては、キャリア教育の必要性が認識されているが、その実施するにあたって基礎的な調査が十分な形で行われていないという問題がある。すなわち、学生がどのような社会観、職業観をいだき、どのような選択行動を取るかについての定量的データは整備されておらず、多くの大学が独自の「キャリア教育」を実施している現状がある。

2. 研究の目的

当該研究は、上述の背景をふまえ、大学生の就業意識、キャリア意識に関する調査を行い、その根拠となる学生および企業の意識に関するデータを蓄積し、学生、及び企業のキャリア意識を定量的に捉えることで、教育の最高機関である大学として望ましいキャリアプログラムを構築することを目的とした研究である。

3. 研究の方法

当該研究は、次の研究方法、および研究計画のもとに進めていく。まず、単年度の研究期間を、「調査期間」と「データ解析期間」に分け、初年度(平成24年度)から最終年度(平成27年度)まで各年意識調査を実施する。調査は各年度の4月に実施し、愛媛大学と松山大学の大学生を対象とし、これに金沢星稜大学および京都産業大学のデータを加える。また、企業を対象と調査については、いよぎん地域経済研究センターと愛媛県中小企業家同友会の会員企業に実施し、データの収集を図る。いよぎん地域経済研究センターへの調査と愛媛県中小企業家同友会の調査は、年度を変えて実施することで、調査対象企業が変わったときの差異を分析する。

調査内容は、大学生については「大学に求める能力・スキルの習得」、「企業への就業条件」、「学生の観点からみた企業の内定の決め手」、「自身に備わっている能力」、「自身に不足している能力」について調査した。また、社会人基礎力で挙げられている能力要素について、その優先順位を選択型実験によって明らかにする。さらに、学生が重視する雇用条件についても、選択型実験によって、その属性間の重視度を定量的に分析する。

企業向け調査については、学生を対象とした調査を、「企業が考える内定の決め手」、「企業が考える今の学生に備わっている能力」、「企業が考える今の学生に不足している能力」として実施し、学生と企業の認識の差異を明らかにする。選択型実験についても同様に、企業が考える社会人基礎力の優先順位、企業が考える、学生が重視している(と思う)

雇用条件として調査を実施し、学生と企業の差異を分析する。

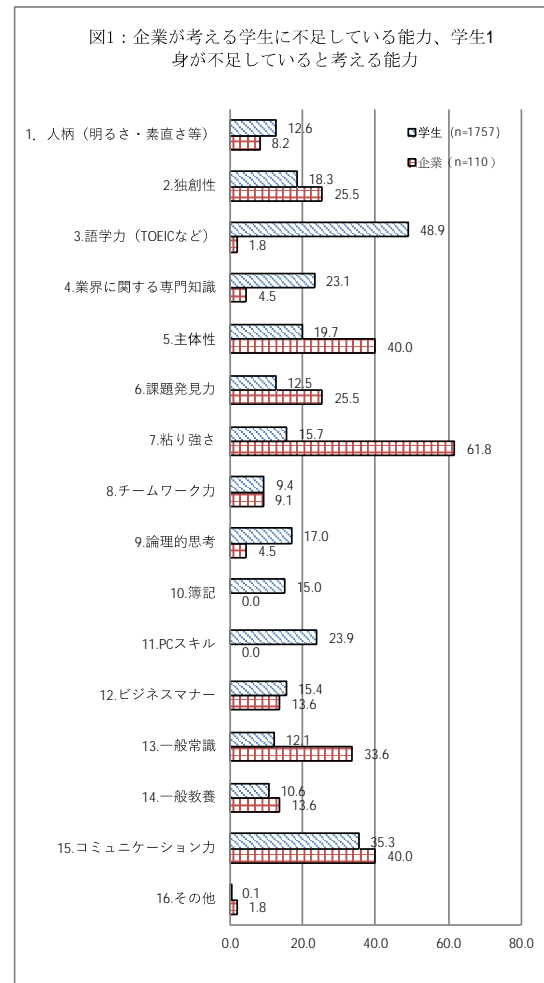
これらの定量的研究をもとに、学生がキャリア意識を明確にできる方策として、キャリアプログラムの検討、教材の開発を行う。

4. 研究成果

調査結果についてまとめたもののうち、本報告書では2014年度に学生および企業を対象に実施した結果を示す。なお、後述するが、毎年実施した調査において、学生と企業の認識の差異は、同様の傾向が見受けられる結果となった。

この調査は2014年4月に愛媛大学、松山大学、金沢星稜大学の学生を対象に実施し、このうち、愛媛大学および松山大学の学生1771名のデータを使用して愛媛県内の大学生の就業意識について分析した結果である。企業については、愛媛県中小企業家同友会の会員企業のうち、110社から得られたデータである。

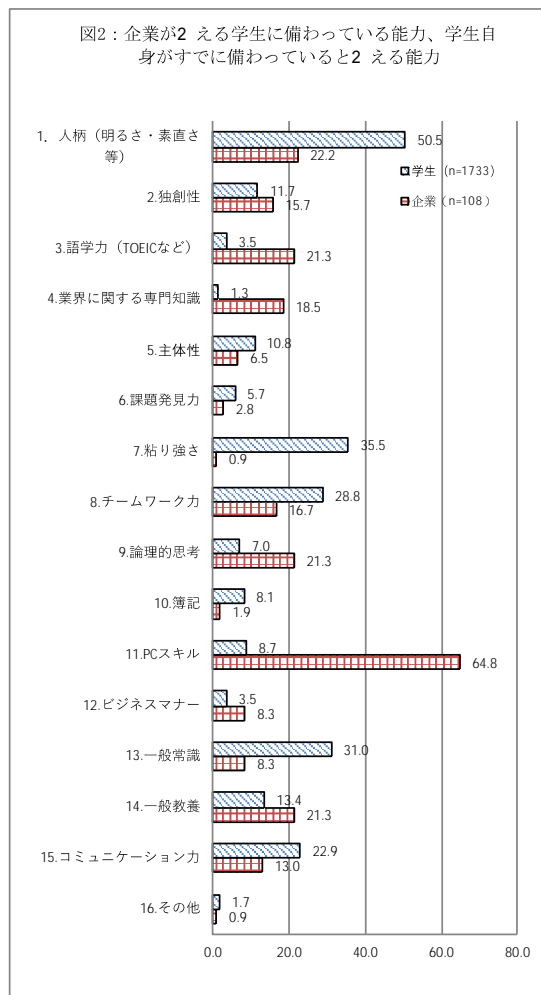
(1)まず、学生自身が不足していると考える能力と、企業が今の学生に不足していると考える能力について、その結果を図1に示す。



最近の学生に不足している能力について、学生自身は「語学力」を最も不足していると感じており、以下「コミュニケーション力」、「PCスキル」、「業界に関する専門知識」が

不足していると認識する結果となった。一方、企業は最近の学生について、「粘り強さ」が最も不足していると認識しており、「主体性」、「コミュニケーション力」、「一般常識」についても高い割合で不足していると考えている。「粘り強さ」については学生自身が不足していると考え割合は15.7%にとどまり、「主体性」についても19.7%であり、企業と学生の間でその認識に大きな差がある結果となった。学生が不足していると考えている「語学力」、「業界に関する専門知識」、「PCスキル」等については、企業は不足していると認識していない結果となった。学生は「語学力」、「PCスキル」、「簿記」などといった定量化・数値化が可能な知識・スキル系に関する能力要素について不足していると考え一方、企業は「粘り強さ」や「主体性」といった、より内面的な能力が不足していると考えている。

(2) 次に、学生自身がすでに備わっていると考える能力と、企業が今の学生はすでに備わっていると考える能力について、その結果を図2に示す。



まず、「人柄」、「粘り強さ」、「チームワーク力」、「一般常識」については、学生はすでに備わっている能力要素であると認識してい

るが、これらの能力要素がすでに備わっていると考える企業の割合は低く、企業と学生の間で差異が見受けられた。一方、「PCスキル」は、企業の64.8%は学生がすでに身につけていると考えているが、学生は8.7%にとどまる結果となった。「語学力」、「業界に関する専門知識」についても、企業は備わっていると考えているが、学生が身に付いていると考えている割合は低く、企業と学生の認識にずれが生じる結果となった。

すなわち、学生は、知識・スキル系の能力については不足していると認識している一方、「粘り強さ」、「人柄」、「チームワーク力」といった企業が不足していると考えている内面的な資質については、すでに備わっていると考えている結果となった。大学内におけるサークルや部活といった集団組織においては、年齢層が近く、価値観も比較的均一であるため、そのようなコミュニティの中において、このような能力は備わっていると考えている可能性がある。しかしながら、社会においては年齢層も多様であり、様々な人とコミュニケーションをとる必要性が出てくる。したがって、企業側と学生の間でこのような差が生じた可能性がある。

これらの調査については、平成24(2012)年度にはいよぎん地域経済研究センターと共同で企業データを収集し、平成25(2014)年度以降は愛媛県中小企業家同友会と共同で実施しているが、すべての結果において、同様の傾向が見られることが明らかとなった。

(3) 働く上で重要であると考える能力要素について、その選好の順位を選択型実験によって明らかにした。この調査は毎年実施する調査項目の一つであるが、働く上で重要であると考えられる能力要素のうち、社会人基礎力に該当する項目を属性に加え、属性間の選好の度合いを調べることで、学生と企業にどのような差異があるかを調査した。以下、平成23(2011)年度の調査結果を図3および図4に示す。

図3：学生の推定結果

属性	Coefficient	t-value	P-value
前に踏み出す力	1.063	22.676	0.000
チームワーク力	1.520	29.799	0.000
考え抜く力	1.194	24.026	0.000
誠実である	-0.451	-10.000	0.000
責任感がある	-0.234	-5.685	0.000
大学の成績	0.029	31.261	0.000
専門知識	0.907	24.282	0.000
給与	0.031	2.824	0.005
ASC	-1.775	-6.200	0.000

図3は、学生が予測する、企業が学生に求めている能力・資質についての結果である。社会人基礎力のうち、学生は「チームワーク力」を企業が最も重視していると予想する結果となった。また、個人の資質を「誠実である」、「責任感がある」、「将来性がある」の3つに設定し、その優先順位を分析したところ、学生は、企業が「将来性」を最も重視していると予想する結果となった。

図4：企業の推定結果

属性	Coefficient	t-value	P-value
前に踏み出す力	1.083	7.142	0.000
チームワーク力	0.568	2.976	0.003
考え抜く力	1.401	5.204	0.000
誠実である	0.397	2.247	0.025
責任感がある	0.882	4.440	0.000
大学の成績	0.016	3.632	0.000
専門知識	0.338	2.351	0.019
給与	-0.233	-4.834	0.000
ASC	-5.469	-6.005	0.000

図4は、企業が学生に求めている能力・資質についての結果である。まず、社会人基礎力については、企業は「考え抜く力」を最も重視する結果となった。また、個人の資質については、企業は「責任感がある」人物を最も重視する結果となった。

これらの結果の特徴について、本調査の調査対象企業の多くは中小企業である点が挙げられる。チームワーク力については、企業が重視する能力要素ではあるが、中小企業ではチームでプロジェクトを遂行する機会もある一方、大企業と比較すると、様々な業務を任される機会も多く、個々の仕事への責任も重いと考えられる。すなわち、チームで行動する以上に個々の資質が重視されており、自らの力で考え抜き、前に踏み出す力を有している人材、さらには責任感の強い人材をより重視する傾向にあると考えられる。一方で、学生は働く上で必要とされる上記の資質をまだ身につけていないので、「将来性」を評価して欲しいという願望が表れた結果、企業はより将来性のある人物を評価するのではないかと考えられる。

当該調査の結果を受け、平成26(2014)年度、および平成27(2015)年度は、愛媛大学、松山大学の教員、職員、学生、一般企業を交えた教育サロンを(教育サロン in 松山)開催し、双方向授業の工夫、学生に一層の学習を促すための授業デザインについての討議を行った。さらに、愛媛大学において、愛媛県中小企業家同友会との提供講座「現代中小企業論」を実施し、15回の授業内で、県内中小企業の経営者による「働くことの意義」、県内中小企業20社による企業研究、就業感

についてのグループディスカッションを組み入れることで、自身に不足している能力要素を学生自身で認識させるよう設計した授業を実施した。

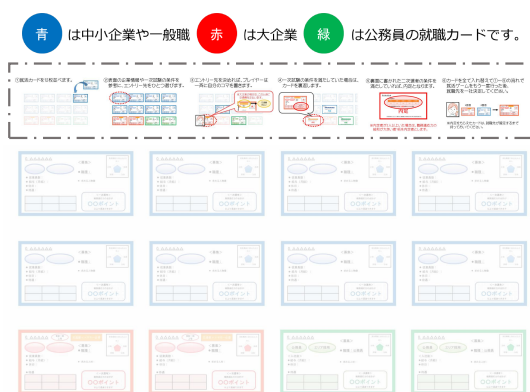
さらに、平成27(2015)年度から平成28(2016)年度にかけて、キャリア意識に関するビジネスゲームの開発に取り組み、大学4年間で疑似体験できるビジネスゲーム(愛-Compass)を開発した。

図5：愛-Compass、メインボード



このゲームでは、一定の時間を学習時間、課外活動、アルバイトに配分する。各個人は、これらの活動を通して起こる出来事から、社会で求められる能力要素(社会人基礎力)ポイントを獲得できる。この獲得したポイントによって、就職活動を有利に進め、卒業後のキャリアを考えるゲームである。このゲームを通して、大学生は自身の大学生活をイメージし、自身が4年間で取り組む課題を明確に意識でき、将来のキャリア形成に繋げるねらいである。

図6：愛-Compass、就活ボード



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4件)

Takashi Okamoto, Nobuyuki Soga, Taro

Kumagai, Hideo Arai, Realities and Ideals of Competencies; The Perceptual Gaps between Companies and University Students, ACM Digital Library, 査読中, 2016
http://dx.doi.org/10.1145/2955129.2955134

愛知教育大学・教育学部・講師
研究者番号：20453368

岡本隆、熊谷太郎、曾我亘由、選択型実験を用いた企業と大学生の間の採用に関する意識差、愛媛経済論集、査読無、34 巻、3号、2015、pp. 1-8

岡本隆、熊谷太郎、曾我亘由、就職に係る大学生の能力についての企業と大学の認識差、愛媛経済論集、査読無、34 巻、2号、2014、pp. 1-8

岡本隆、熊谷太郎、曾我亘由、愛媛大学生と松山大学生の資格意識に関する調査、愛媛大学法文学部論集、査読無、36 巻、2014、pp. 1-17

〔学会発表〕(計 1 件)

Takashi Okamoto, Realities and Ideals of Competencies; The Perceptual Gaps between Companies and University Students, MISNC 2016, 2016 年 8 月 18 日, Kean University

〔図書〕(計 1 件)

東田晋三、キャリアは常にそこがスタート Will から始まる「ライフデザイン・スケッチ」ブック、株式会社ドリームシップ、2016、72pp.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

曾我 亘由 (SOGA, Nobuyuki)
愛媛大学・社会共創学部・教授
研究者番号：50346657

(2) 研究分担者

岡本 隆 (OKAMOTO, Takashi)
愛媛大学・社会共創学部・教授
研究者番号：50314943

熊谷 太郎 (KUMAGAI, Taro)
松山大学・経済学部・教授
研究者番号：90379503

東田 晋三 (HIGASHIDA, Shinzo)
京都産業大学・経営学部・教授
研究者番号：50388170

北野 友士 (KITANO, Yuji)
金沢星稜大学・経済学部・准教授
研究者番号：90532614

西尾 圭一郎 (NISHIO, Keiichiro)